

令和6年度 第1回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和6年6月26日（水） 13:30～15:10
場 所	第一委員会室
参 集 者	委 員／中條庸右、齋藤 勉、堀 俊一、田中 大、金子 尚、 進藤和真、大滝美樹、穂積 祥 欠 席／齋藤 隆 酒田市／堀賀教育次長 スポーツ振興課：樋渡課長、中山課長補佐、高橋主査兼係長、 乙坂係長、山崎調整主任 学校教育課：小林指導主事
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会委員名簿 ・ 資料1 令和5年度の事業評価・令和6年度の事業概要について ・ 資料2 酒田市スポーツ推進計画の中間見直しについて ・ 資料3 令和5年度スポーツ振興課所管施設利用状況について ・ 資料4 令和5年度「酒田市のスポーツの推進に関する 市民アンケート調査」の概要 ・ 資料5 中学校運動部活動の地域移行について ・ 追加資料 「熱中症特別警戒アラート」とは？（情報提供）

【委嘱状の交付】

- ・ 新任の委員に、教育次長より委嘱状を交付。

1. 開 会（事務局）

【会議の成立について報告】

- ・ 「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会については、委員総数9名のうち、出席者8名となっており、審議会が成立していることを報告する。

2. あいさつ（教育次長）

- ・ 委員の皆様からは、本市のスポーツ振興にご尽力いただき感謝を申し上げます。今年度もお力添えいただくよう、よろしくお願いしたい。
- ・ 最近のスポーツの話題は、これから始まるオリンピックである。コロナ禍に開催された東京オリンピックでは白熱したプレー、連携のとれたチームプレーなどに感動し、スポーツの魅力に引き込まれた。今年も多くの人達に感動を届けてくれるものと期待している。
- ・ 昨年度で最後の開催となった市民体育祭は、運動会形式から形を変えて、今年度は家族やサークル仲間、地域住民みんなでニュースポーツを楽しむことができる「第1回スポーツフェスティバル」として7月7日に開催予定。今年度の目玉事業であり、委員の皆様からは当日ぜひご参加いただき、第2回の審議会でご意見をいただきたい。
- ・ 本日の審議会では、令和5年度事業評価及び令和6年度の事業概要についてと、「中学校運動部活動の地域移行」について、皆さまからそれぞれの立場での意見を頂戴したいと考えているので、よろしくお願いしたい。

【職員自己紹介】

3. 協議（進行：会長）

【審議会の持ち方について】（事務局説明）

- ・審議会は年3回開催する。
- ・本日1回目の審議会では、平成31年3月に策定した酒田市スポーツ推進計画に基づいて、4つの基本目標に沿った形で昨年度の取り組みと、今年度の事業の取り組みを資料としている。今回は各項目についてご意見をいただきたい。
- ・2回目の審議会は9月頃の開催を予定しており、事業の進捗状況と、翌年度の予算要求に関わる内容について、委員の皆様へ報告し、意見を伺う場としたい。
- ・3回目の審議会は2月頃の開催を予定しており、今年度の取り組みと、次年度の取り組みについて報告していきたいと考えている。

（1）令和5年度の事業評価について及び令和6年度の事業概要について

<基本目標1 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進【資料1-1】>

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○特になし。

<基本目標2 感動と活力に満ちた競技スポーツの推進【資料1-2】>

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○会長

白崎資金の表彰がなくなったということで、スポーツ少年団本部のほうで独自に表彰いただいた。子ども達にとっては大変喜ばしいことだったのではないかと。今後ともぜひお願いしたい。

<基本目標3 スポーツによる賑わいとまちづくりの推進【資料1-3】>

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○委員

おしんレースに関して、昨年から出ている財政の問題やボランティアの確保など色々あると思うが、コロナの影響よりも「引き継ぐ人がいない」「ノウハウがない」など、昨年からの話題にあがっていたと思う。おしんレースについては、このままフェードアウトしていくような印象で捉えていたが、スポーツツーリズムの観点から見た今後の在り方について伺いたい。

⇒事務局

おしんレースについては、令和2年以降コロナの影響で開催していない。また事務局の方が単独で長くやってきた経緯があり、基本的には他の競技大会と同じように「競技スポーツ」という位置づけをしている。東京オリンピックの関係で、ニュージーランドのホストタウンとして手を挙げたわけだが、今後、開催の方向性としては、大会自体を市が中心となって開催することは考えていない。審判など資格を持っている人がいないと開催できない点などもあり、大会が日本トライアスロン協会の公認というものになるとすると、なおさら行政だけで開催できるものではない。基本的には他の競技スポーツと同様に、競

技団体が主催すべき大会と考えている。

スポーツツーリズムの観点からも、スポーツ推進計画の中で交流人口の拡大を想定しているが、市の計画自体を見直したいと考えている。

○委員

コロナの影響で様々な活動をピタッと止めたりしていたので、スポーツだけでなく、色々な自治会活動から何から全部、動かそうとはするのだが、4年間のギャップが非常に大きい。完璧に動かしたいのだが、なかなか動かせない状況が続いている。少し長い目で見ると、バージョンアップをしていきながら、本来の形に持っていきしかないとと思う。

○事務局

スポーツフェスティバルについては、市民体育祭に代わるというよりは新たなイベントとして位置づけているわけだが、当初、大会種目の参加として620人ほどを想定していたところ、現状で280人、想定45%ほどの参加となっている。ただチーム数が少ないというよりも、チームの構成人数が想定していた5人から3人に減るなど、そういう状況である。1回目で手探りの状態であるので、来年に向けてブラッシュアップしながら進めていきたいと思う。

あと、つや姫マラソンについては、5kmのコースを追加したいと考えている。また、出羽大橋を渡らせるというコースを考えており、今年度初めに酒田警察署へコース変更の相談をしている。このコース変更については、警察の許可が無いとできないわけだが、一番重要なのは、コース周辺の住民の皆さんの協力がないと、なかなかコース変更につながらない。審議会の委員の中にも四中学区の方がいらっしゃるの、ぜひ会議等の場で市民の皆さんに周知していただいて、コース変更につながるようご協力をお願いしたい。

○委員

5kmコースの対象年齢はどう考えているか。

⇒事務局

5kmコースについては、10kmを走れない方も出場できる部門として設定するものである。(対象は高校生以上となる。)

<基本目標 4 安全安心なスポーツ活動のための環境整備【資料 1-4】>

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○事務局

旧松山中学校体育館への仮設スケートリンク整備について、改めてご説明させていただきたい。今回のスケートリンクの整備については、当初予算には盛り込むことができなかった。その理由としては、令和5年度中にずっと協議をしてきた中で、結論が出たのが予算編成終了後の3月であったということである。そのため、4月に設計委託料として1,100万円を補正予算として計上させていただいた。経緯としてはスケート協会からの要望や、年間2万人近い利用者からの継続要望が背景にある。加えて、山形県では屋内スケートリンクの整備の話が令和5年度中に出てきた。今回、なぜ旧松山中学校体育館なのかということについては、体育施設の適正化に向けて、平成31年度に「体育施設整備方針」

というものを策定している。この方針は、10年スパンでどのように施設を維持していくか、あるいは解体（除却）、建て替え、そういったものを内部で協議したものになる。その中で、昭和56年に建築基準法の改正があり、当時までは震度5程度までが耐震の基準だったものが、震度6強～7程度の揺れでも耐えられるというのが新耐震基準となった。旧松山中学校の校舎自体は昭和56年以前の建物で、体育館は昭和56年以降の建物である。施設についても備品についても、耐用年数が切れたからそこで終わりというわけではなく、修繕をしながら長寿命化を図っている。昭和47年築の酒田市体育館についても、新耐震基準前の建物で老朽化が激しい中で、使えるものは耐震補強をして使っていこうという判断でスケートリンクを仮設で設置してきたが、このままでは人命に関わるということで、令和5年度末に用途廃止をした。

スケートリンクについては、別の所に設置できないかと民間施設と市の施設を合わせて22施設ほどを比較検討しており、最終的に面積や耐震性を考慮して検討に至った所が旧松山中学校の体育館だったということである。この旧松山中体育館は、最終的には現在の松山体育館の機能を移転して整備をする方向であった。このような中で、県のスケートリンクの整備検討の話が浮上したことで、それに対して本市では庄内地区へ屋内スケートリンクを設置してほしいという要望を県に出している。

様々なことが重なり何とか継続していったほうが良いのではという政策判断がなされ、今回、設計費の計上と、旧松山中学校校舎の解体ということになった。金額的には8億ほどの金額が報道されているが、過疎対策事業債というものを充当することで、総額の7割が地方交付税として戻ってくる仕組みになっている。

今後の整備の方向としては、整備費というものがまだ計上されていないが、費用の面については分かり次第、審議会等で説明させていただきたい。

○委員

市体育館にスケートリンクがあったときは利便性が良かったと思っている。子ども達、中学生くらいでも自分達で行こうと思えば行けたし、年間2万人の人達が利用できたということであるが、旧松山中体育館になると、かなり移動距離が長くなってしまう。その部分についての考えはいかがか。

⇒事務局

課題となるのは交通手段かと思う。庄内スケート協会にも確認したが、近隣の中学生は自転車や徒歩でくるのだろうと思っていたら、現状はほとんど自家用車だということを知っている。インフラが整備されたとしても、松山地区の細い道を通ることになるので、利用者は一定程度減るだろうと思う。利用については、小学生の課外授業で使われているので、その辺はスクールバスになると思うが、一般利用者をどのように集客するのかについては、2年の期間があるため、周知方法だとか運営を含めて、庄内スケート協会などと相談して、より多くの利用者に来ていただけるよう検討していきたい。

(2) その他

●酒田市スポーツ推進計画の中間見直しについて【資料2】

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○特になし。

●令和5年度スポーツ振興課所管施設利用状況について【資料3】

(資料に基づき、事務局説明)

●令和5年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」の概要【資料4】

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○委員

同僚の30～40代のママ達に子育てしながら仕事をしてもらっているが、まさに仕事でスポーツができていない。遊佐町では健康マイレージのポイントカードが全世帯に配られている。健康とスポーツはマッチングできるため、「健診や健康教室に行くときは必ず持参しましょう」「私の目標：毎日禁煙をする、毎日体重を測る」とかそういうものがある。1年間の中で、健診とかスポーツイベントに参加したときはハンコがもらえる。それが貯まると何かと交換できる。財源も、酒田市と比べると融通が利くのかもしれないが、低料金のスポーツイベントや、親子でできる活動のチラシがしょっちゅう来ると聞いている。今はITの時代だから見逃してしまうこともあるが、色々な市町村の取り組みを参考にしていければと思う。

子ども達(中学生など)はバスケットボールが上手になりたいと思ったら芸能人のユーチューブを見てトレーニングをしたり、自分が病気になったら健康というものを改めて意識したり、何もないときはやらないが、何かきっかけがあったりモチベーションがあったりすると「やろうかな」となる。なるべく出掛けなくてもできるものがあったらいいとか、「(し)ながら」でできる運動があればユーチューブで配信してほしい、などの意見があった。

⇒事務局

本市の健康マイレージ事業については健康課が担当しており、本市はオンラインになる。7月7日のスポーツフェスティバルの参加者に周知すると健康課より聞いている。直接呼びかけをして、マイレージ事業に参加していただきたいと思っている。

○会長

アンケートを見ると、30～40代はスポーツの実施が少なく、70代のほうが多い。実施できなかった理由は「仕事や家庭が忙しいから」というのがトップであるが、次に来るのが「面倒くさいから」、これはどうしようもない。働き盛り、その年代層の方々がスポーツをやれないという事情なのか、「面倒くさい」がそこから来るのか分からないが、高齢者が一番運動している。

○事務局

これは皆さんへの紹介であるが、笹川スポーツ財団のデータがあって、面白いと思ったのが、「スポーツが寿命を縮める」という記事。デンマークの「コペンハーゲン調査」で検索すると出てくると思う。内容については、スポーツが寿命を延ばす・縮めるの根拠の中で、コペンハーゲンで成人8,577人を対象に25年間に渡って追跡調査をしたという内容である。何の追跡調査をしたかという、スポーツ、例えばサイクリング、水泳、健康体操、サッカー、バドミントン、テニスとか色々な種目をやっている人の追跡調査をした。その結果、やらない人とやった人の健康寿命がどれだけ違うかという内容である。何の種目をすると健康寿命が延びるのか。私もスポーツ行政に携わってきて、気軽にできるウォーキングだとか、ノルディックウォーキングだと体の9割くらいを使う全身運動だから体に良いとか、そういった話をしてきたが、実はジョギングだとか走るスポーツは1歳くらいしか変わらないという結果だった。では何の競技種目が一番寿命を延ばすのかとい

うと、テニスが一番寿命を延ばすということで、9.7歳延びるという結果であった。それは何故かという、ジョギング、ウォーキングといったものは一人でできるが、テニスとは2人以上、ダブルスであれば4人以上必要であり、コミュニケーションが一番大事だという内容であった。

○委員

今の件で、スポーツがなぜ大事か。長生きするためのものというよりは、健康に生活できる。もしかしたら、アスリートで本当にやりすぎた方というのは、短命だったりするかもしれない。何をもちてスポーツが大事かとなったときに、より良く生きるということと、寿命ということと、あとは自分なりの目標ができるというところが、それぞれスポーツ推進計画に「誰もが楽しめる生涯スポーツ」「アスリート」と分けられていく。そういう点では色々な観点から参考になると思う。

○中学校運動部活動の地域移行について【資料5】

(資料に基づき、事務局説明)

●1 部活動の現状

- ・令和6年度は生徒数が2,100人台まで減少している。加入率についても60%を切っている状況で、生徒数が減少した大きな要因は、今年入った中学生は東日本大震災の年に生まれたということで、全体的に人数が少ない学年となっている。
- ・指導者数については年々増えている状況。6月25日現在158名の方が外部指導者として登録をいただいている。市民の方にも部活動改革については興味があるので、そういう状況である。

●2 部活動地域移行の現状

- ・資料のとおり。

●3 令和6年度部活動改革重点施策について

(1) 受け皿となるクラブの設立

- ・二中、三中、六中学区について受け皿となるクラブが無い状況で、話し合いを進めてきた。今年度、各校からコーディネーターを1名選出していただき、すでに2回の会合を開いている。目標としては令和7年度の夏以降、新人チームからそちらのクラブでの活動を考えている。ただ一つ、二中、三中、六中で大きな傘を作ろうと動いているが、それがイコール、合同チームを作ることではない。それぞれの中学校で単独で組めるうちは、単独でクラブとして活動する。人数が少なくなって、チームが組めないという状況になったときに、初めて一つのクラブとして動いていく予定である。
- ・鳥海八幡中についても、地域にある総合型スポーツクラブ、やわたY-Yクラブとの連携を加速しながらも、実際ほかの中学校にあるクラブとの連携も進めている。陸上競技部については、東部中学校区にあるひらた目ん玉スポーツクラブの陸上教室というところで一緒に活動して、先日行われた中体連の地区総体にも一緒に出ている状況である。

(2) スポーツ・文化サポーター人材発掘・育成

- ・昨年度から酒田市独自で立ち上げているが、6月25日現在16名ということで、まだまだ認知度が低い状況となっている。今年度は各中学校区の各種目で、指導者の調査をして募集をかけているところになるが、まだまだ認知度は上がっていない。ホームページやホームページ等でも募集をしている。また、今年度から文化部にも広げて募集している。

- ・スポーツサポーターセミナーを独自に開催している。1回目は5月24日に青山学院大学准教授で酒田市出身の星川精豪氏に講師としてお越しいただき、講演いただいた。50名近くの方に参加いただき、好評だった。2回目は11月9日を予定している。

(3) クラブ支援

- ・昨年度に引き続き今年度も国の委託事業を行っているが、部活動改革推進期間が令和7年度で終わるため、それ以降はそういったお金がどうなるのかというのは不透明である。そのため、受益者負担というところが増えてくることは避けられない。そういったところの負担を少しでも軽減できるようにということで、部活動応援企業制度（仮称）の設計を、令和7年度中にできるよう、富山県の制度をもとに進めている。その際、オリジナルロゴの作成を考えている。

【質疑応答】

○事務局

教育委員会の中だけではなく、本日欠席をしているが、スポーツ協会からの協力も必要である。この資料が最終形ではなく、あくまでも進捗状況である。これから色々とスポーツ振興課も関わり、様々な形を模索している中の一つであるため、部活動移行の推進期間は令和7年度末と決まってはいるが、必ずしもそこまでやらなければいけないというようなことでもなく、やはり子ども達のためにより良い受け皿となる組織が立ち上がれば良いと考えている。それが、現状では総合型スポーツクラブということではあるが、指導者の確保が一番重要視されると思うので、それを考えたときに、スポーツ協会の協力なくしてはなかなか難しいと思っている。

この審議会において、ぜひ地域移行に関する皆様のご意見や、現場の意見、保護者の意見など色々な声を聞いていただいて、ぜひ参考にさせていただければありがたい。

○委員

21日に酒田市総合型スポーツクラブの総会があった。これより詳しく、例えば「きらり川南でどの部が登録しているのか」「スポーツ少年団ではどこが関わっているのか」等の細かい資料があったので、それを見ていただくと、色々な形で少し見えてくるのかなと思う。

○委員

今月11日に広島県で部活中に怪我をして、その6日後に亡くなられたという事故があった。この事故についてはご存知かと思うが、2～3日前に私もクラブチームの指導者と一緒に、あの対応はどこがまずかったのか色々話をした。この地域移行ということで、外部指導者であったり、サポーターだったり募集をかけるわけだが、そこをもう一回、マニュアル等ががっちり見直したほうが良いのではと思う。

○委員

総合型スポーツクラブでは、以前からの課題なのだが、指導員がどこのクラブも不足気味である。運営に関しても、どこのクラブも人材不足ということがここ2～3年で出てきて、そのような状況の中で、まずはスポーツ協会等の協力を得ながら、指導員の充実・確保を一緒にしていけたらと思う。また、小さい頃からのスポーツへの関りというか、スポーツ以外にも「地域」「友達」「わいわい賑やかに遊ぶ」とか、そういう場面が今の子ども達に足りない。どうしてもスマホなどの画面に向かってしまい、コミュニケーションを取るような環境にないということで、これは壮大なことになるが、子ども達に対しての「運動する」「体を動かす」ことの楽しさというものを本当に全部の幼稚園・保育園から始めて、小学校までずっと継続していただけたら、将来的に「こういうお兄さん、お姉さん達、かっこよかったか

ら自分もなってみたい」という子が増えてくるのではないかと思う。

部活動改革のサポーター募集についても、小さい子達の親世代は本当にスマホ世代なので、どんどんSNSで発信したほうが周知になるのではと思うが、高齢者にとってはアナログの方がよいので、両方を取り入れたハイブリッドな形で対応いただければと思う。

○委員

色々な会議の中でSNSが出てきている。ところが、連絡が周知徹底されていない場合がある。スマホを持っている人、持っていない人ではなく、持っている人でも無視する人がいる。SNSは最高だと言いながら、意外と流される場合もある。一概に「それがいい」ではなく、色々な方策でやっていかないと難しい。

もう一つは、私達はスパルタで「水を飲むな」とかやられた世代であるが、今の30～40代は「ゆとり教育」で育った最初の子供たちである。今の子ども達は、親がゆとり教育で育った子ども達である。その辺も少し認識していかないと、多分ついていけなくなる。ものの考え方がだいぶ変わっているので、把握しながらやっていかないといけない。それから、「対応をどうすればよかったか」。これは色々な勉強会で、それなりの専門家を呼んできて、対応の仕方を勉強していかねばならない。ただ勉強しただけではだめで、勉強した人を指導者として、資格という形で認めていく。そういう人を配置していく。経験則だけで配置しては、さっき言ったとおりのことが起きるのではないか。これからは人づくり。きっちりした資格を取って、そういう人を配置して、「私達はこういう団体ですよ」という形でやっていかないと、地域型も大変になってくる。

○会長

できればスポーツ協会とか連盟が、地域貢献ではないが、指導者を派遣できる制度があればよい。例えば酒田吹奏楽などは、そういう人が学校に指導しに来てくれる。そういうような、指導者を発掘するような形でやっていかないと、すぐ「育てましょう」と言っても育つものではない。できる所、やっている所から、うまく出てくれる人がいればいいと思う。連盟なり協会から指導者が出る。その指導者に対して、部活動の中での事故だとか、そういう対応の仕方、マニュアルのようなものを身に付けてもらう。

要は、「部活動が土日のときに、指導者がどれだけ対応できるか」という体制づくりだと思うので、それができればあとはやり方で、マニュアルを作って、「こういう形で」とできると思うが、ただその指導者がいない所は大変で、受け皿がない所はまた大変。できる所から、よろしく願いをしたい。

○委員

生涯スポーツ関係ということで、今も子ども達が、運動が好きだとか、体を動かすのが好きだということ。そういう気持ち将来につながっていくと思う。これまでずっとスポーツ鬼ごっこを実施していただいたが、大変ありがたく、大変高い評価が得られている。何が良いかというと、最初は体育の授業の時間を使うわけだが、休み時間に子ども達が、それをもとに自分達で遊びに繋げていけるというところが、すごくいいと思う。今の子ども達はボールとか、道具がないとなかなか遊べないという現状が、うちの学校でも見られる。我々が子どもどものことを考えると、グラウンドなどの空いている所に棒で線を引いて、そこで鬼ごっこをしたり、何か書いたりして、色々工夫して遊んでいた。結局はそういうことを子ども達が知らないでいるということもあると思う。今回は「スポーツ鬼ごっこ」ということで子ども達に色々伝えていただいているわけだが、そういう“遊び”を伝えるような、それが学校の体育の授業なのか、それとも一般で、休みの日に応募してやるというのか分からない

が、そういう手軽に楽しめる遊びがあることを伝えられるような機会が大事になってくると思う。

○委員

施設利用に関わるところで、飯森山公園の多目的グラウンド(天然芝のグラウンド)で、色々な活用をされていると思うが、この何年間か暑さで芝生が傷んでしまい、試合が、特にサッカーの公式戦が開催できなくなり違う会場で、というようなことがおこっている。県外から色々なチームが来ている中で変更があったり、交流する機会が、この何年間か暑さのところ制限がかかって、ちょっともったいないところがある。光ヶ丘の球技場のような人工芝のグラウンドで、ある程度環境の要因に左右されない施設が今後整備されてくるようであれば、施設の利用もより活発になる。例えば、二つあれば大会が開ける。今後、温暖化により毎年、使えるか使えないかという状況があると、利用する側としても敬遠してしまう。

検討の可能性があるのであれば、通年で、環境に左右されず利用できるような方法も、このグラウンドだけではなく、例えば屋内でエアコンが必要だとか、そういった所もあるかと思うが、暑さとか環境で左右されずにスポーツができる施設の整備というのも徐々に、スポーツ人口や交流人口を増やすうえでは必要なのかなと感じた。可能であれば検討をお願いしたい。

○委員

関連して、じつは昨日に中体連の会議があった。そのときに飯森山の芝生の件も出された。かなりグラウンドが固くなっている部分もあり、怪我が心配な状況もあるため、北港のグラウンドを使おうとすると、今度はそこでは日除けとか、焦熱対策をとる所が無いということもあった。天然芝と人工芝では表面温度が全く違ってくるという話もお聞きした。今の時代、昨年度あたりからかなり熱中症対策のことを言われているので、そういうところも含めて、長期的な目で、色々な施設を整備していくことを考えていただきながら、スポーツを支えるような人達も困らないような工夫をしていただけるとありがたい。

⇒事務局

体育施設の整備に関して、エアコンが付いている所というのは、INPEX酒田アリーナのみになる。昨今の猛暑に対して、スポーツをする環境をどうやって整備するかということ、当然、担当課としては、様々な場で検討していく必要がある。ただ、予算を伴うというところを考えると、当然使用料の改定、あるいは減免、そういうものにも影響していく。利用者の受益者負担という部分をどのようにやっていくのか。小学校、中学校、例えば高校の部活動等も時間帯で減免しているし、総合型スポーツクラブの活動についても、今のところは全額免除。究極の話をする、市民10万人全員が総合型スポーツクラブに加盟すれば全員が無料で使えるわけだが、払うものは払って使ってもらおう。そのかわり、市としてもしっかりと整備していく。そのような方向付けがなされれば一番良いということも含めて、皆様と一緒に協議していけたら大変ありがたいと思うので、よろしくお願いをしたい。

●「熱中症特別警戒アラート」とは？(事務局より情報提供)

- ・今年4月に法改正があり、新たに「熱中症特別警戒アラート」というものが発表されることとなった。都道府県内全ての地点で暑さ指数の予測が35以上になった場合、前日の午後2時頃に発表される。
- ・酒田市の体育施設については、昨年度より、熱中症指数計を各施設に配備した。指数「31以上」「28以上31未満」の場合に、体育施設の管理人のほうで、利用者に注意喚起を

行ってきた。

- 指数の関係で当日キャンセルをしたいという利用者の方には、キャンセル料を取らずに対応をした。
- 熱中症特別警戒アラートが発表された際は、大会主催者、学校の関係者などは、熱中症対策を徹底し、対策が徹底できない場合には、大会の中止などの対策が必要。大会主催者には、これまで以上のリスク管理が必要になる。

【質疑応答】

○特になし。

4. その他

○特になし。

5. 閉 会（事務局）

以上